

能美市議会議員 たなか 田中 さくじろう 策次郎

絆 きずな ～能美市政報告～



3月議会一般質問 (p2・p3)

- 学校生活における社会体験や思い出づくりの支援を
- コロナ禍でのスポーツ進学の子も達への支援を
- コロナ禍での市民の健康維持への事業拡充と支援を
- 新型コロナウイルス感染症の患者や家族への差別の対応を問う
- 新型コロナウイルス感染症に対応した災害ボランティアセンターに行政の連携と支援を



2020/12/15のみバス乗車 200万人式典 2020/12/16 国際交流ひろば (ふるさとミュージアム) 2020/12/17 寺井高校生との男共共同参画学習会 2020/12/18 三道山子ども食堂



2021/12/22 生活応援弁当 2020/12/25 和佐谷橋橋名版披露式 1/7 国際交流協会ニューイヤーコンサート



1/8 三道山子ども食堂学習支援 1/10 能美市成人式 (寺井地区) 1/10 能美市消防団出初式



1/24 能美市長選挙 無投票当選 井出としあき 1/26 生活応援弁当



1/27 三道山子ども食堂 生活困窮者支援 2/5 三道山子ども食堂シングルファミリー応援 学習支援 & お弁当 2/27 傾聴講座 2/28 小松・能美母子寡婦会とごまつ子ども食堂・三道山子ども食堂共催フードパントリー



2/10 能美市商工会女性部さんが生活困窮者の方々にバレンタインデーに合わせてお菓子のセットを三道山子ども食堂にもご寄付されお弁当と一緒に頂戴し大変喜んで頂戴しました 2/26 湯谷町老人会 いきいきサロン防災講演



2/12 和気小学校福祉体験授業 2/13 石川自主夜間中学開校式 2/19 三道山子ども食堂カレー弁当



2/27 傾聴講座 2/28 小松・能美母子寡婦会とごまつ子ども食堂・三道山子ども食堂共催フードパントリー 2/28 たすかっわ大賞優秀賞受賞 (三道山子ども食堂) 3/11 東日本大震災面影展 (市防災センター)



3/5 三道山子ども食堂 & 学習塾 3/14 NPO えんがわ総会 3/14 能美根上駅リニューアル 3/19 三道山子ども食堂



3/22 宮竹小学校福祉体験授業 3/26 湯谷町老人会 いきいきサロン防災講演

●コロナ禍での学校生活における社会体験や思い出づくりの支援を

小中学校での学校生活は、学力向上に加え、集団の中での社会生活や人格形成を養う成長過程において非常に大切な機会と考える。コロナ禍の学校生活において、運動会や遠足、スポーツの大会や文化部のコンテストなどが縮小、中止され、子どもたちの体験する多くの機会が失われていると感じます。

子供たちは、勉強で頑張る子、集団の中でリーダーシップを発揮する子、スポーツで活躍する子など、学校でいろいろな個性を生かし伸ばします。学校生活は社会に踏み出す大切な準備期間と考えます。

新しい小中学校のコロナ生活様式の中で、どきどき・わくわくする社会体験や思い出をつくる施策展開と、予算の拡充を求める。

みんなと運動会したかった。遠足に行きたかった。もっと学校に行きたかった。そんな中でも、コロナの中で工夫してくれた先生、ありがとう (市内児童の言葉)

答 谷口 徹 教育長

能美市教育委員会と学校は、児童生徒の希望やアイデアを引き出し、共にできることを考えながら工夫を凝らして行事や体験活動を実施した。制限があることで逆に児童生徒が、「より主体的に考え積極的に行動できた」「例年より規模は縮小されたが児童生徒の満足度は高かった」という学校からの報告も受けています。

新年度は新たな体験や思い出づくりの施策として文部科学省が掲げるSTEAM教育の理念に基づき、市内企業やJAISTなどと連携し英会話や科学実験、プログラミングやものづくりなどのモデル事業を取り入れる。

今後も行事や体験活動の意義を大切に、感染防止を徹底しながら実施していく。

●スポーツ進学の子ども達への支援を

スポーツ推薦などで学校を選択し受験する生徒も多い中、中学校でのスポーツの大会が縮小、中止となり、成果を見せることのできなかつた生徒たちの進学への対応が必要。能美市は競歩の鈴木雄介選手、ライフル射撃の平田しおり選手、リオ水泳の小堀勇氣選手、プロ野球では松井秀喜選手、高木京介選手、京田陽太選手など、スポーツで活躍している選手が大勢います。彼ら彼女らも、小学校、中学校から高校進学が大きなステップになっていると思います。

スポーツ推薦や体育の指導者を目指す子供たちに、コロナ禍での進学への支援強化を求める。



答 谷口 徹 教育長

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、成果を発表する場である多くの大会が中止となったが、高校へのスポーツ推薦は、それまでの成績や記録を活用して高校と綿密な連携を取りながら、本人や保護者と相談を適切に進めた。

スポーツ面だけでなく、本人の高校生活に対する意欲や進学後の学習を含めた多面的な角度から丁寧に相談を重ね、希望と納得のある進路実現を支援しており、今後もスポーツ推薦はもちろん、全ての生徒が意欲を持って夢の実現に近づける進路が実現できるよう、丁寧に支援と指導に取り組んでいく。

●コロナ禍での市民の健康維持への事業拡充と支援を

新型コロナウイルス感染症の拡大によって感染防止のため病院への受診や健康診断も控える傾向にある。高齢者が外に出る機会が少なくなると、体力が低下し虚弱化が進む。人と接する機会が少なくなることから、高齢者世帯の病気の悪化や体力の著しい低下を見逃してしまう可能性も増える。地域の民生委員の方も新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考え、訪問が難しくなっていると聞く。市民の健康を守るため、次年度はこれまで以上に疾病予防や未病、フレイル対策に力を入れる事が必要と考える。コロナ禍での今後の市民の健康維持の事業拡充と支援を求める。

答 井出 敏朗 市長

外出自粛により高齢者の心身機能低下が心配されたため、昨年5月、自宅でできる簡単な運動をケーブルテレビで放映し、9月には、市内施設を巡るスタンプラリーを取り入れ、外出する機会を設定した。

令和3年度からは、生活習慣病重症化予防が必要な方に、かかりつけ医や調剤薬局等と連携しながら、正しい受診と内服の理解を促す訪問指導を行う。

高齢者の健康維持のためには、社会活動に参加し、フレイルを予防することは重要であると考え、モデル地区を定め、通いの場での運動指導士等による体操やヨガのほか、医療専門職による健康教育、健康相談などを行い、内容の充実を図る。



●新型コロナ感染症の患者や家族への差別の対応を問う

令和3年2月3日、新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律が成立し、新型コロナウイルス感染症に関連した差別的取扱い等の防止、相談支援や啓発の取組を進めるとした。地域や家庭・学校教育におけるコロナ差別や偏見をなくす発信や取組をどのように進め、差別などの被害に遭った方に対する支援の対応を問う。

答 佐々木 ひふみ 健康福祉部長

新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について、どのようなことが差別や偏見なのかを理解してもらうために、市ホームページで具体事例を提示し、啓発普及を行い、差別や偏見について相談があった方には、人権に関する専門相談窓口や市が行っている精神科医師によるこころの相談につなぎ、支援を行っている。

来年度は、出前講座のメニューに感染予防対策を追加し、正しい感染予防について普及していく。

各学校においては、子供たちが新型コロナウイルス感染症の予防について正しく理解し、適切な行動を取れるよう指導に取り組んでいる。また、差別などの悩みを一人で抱え込まないように、スクールカウンセラーを活用して校内の相談体制を整えとともに、24時間子どもSOS相談テレホンを周知するなどの取組も進めている。差別や偏見の基になる不安を解消するために、正しい知識を得、正しい行動を取ることが大切であることを市民に伝え、差別意識の払拭に努めていく。

●新型コロナ感染症に対応した災害ボランティアセンターに行政の連携と支援を

コロナ禍でも昨年7月の熊本豪雨や、本年2月の福島県沖地震などの災害は起こっています。市でも、災害対策としてコロナ禍での避難所運営訓練などをほかの自治体に先駆けて行っています。避難所運営は各町会などがリーダーシップを取り運営する事が基本となっています。その支援として、市では数年前より自主防災組織や防災士の育成に大きな支援を行っております。

これに加え、災害からの復興には災害ボランティアの力が大変必要となります。しかしコロナ禍の今、災害発災地には支援を求める声が多くても、感染拡大を抑えるために災害ボランティアの受入れは近隣市町や県内に制限せざるを得ない状況が続いています。昨年7月の熊本豪雨災害でも災害ボランティアセンターで感染が発生し、ボランティア活動も制限され、市民の生活再建が遅れる事態も起こりました。

今、災害時には被災者と支援者の感染防止とコロナ感染症に対応した災害ボランティアセンターの立ち上げが求められる。これには市民の災害ボランティアコーディネーターに加え、専門的知識を持った医療関係者や行政が連携した活動が必須となる。災害が起こる前にボランティアでできること、行政でできることのシミュレーションと組織づくりを行うことが必要である。新型コロナ感染症に対応した災害ボランティアセンターの構築に行政の連携と支援ができないか。

答 佐々木 ひふみ 健康福祉部長

災害ボランティアセンターは、市災害対策本部の指示を受けて市社会福祉協議会が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策に対応したボランティアの活動の範囲、活動内容等を決めていく事となっている。今後は、ボランティア申出者への感染予防の指導及び健康管理の強化、接触や密集を避けるためのITを活用した受付体制などの対策を講じる必要がある。指摘のとおり、専門的知識を持った医療関係者との連携は重要と考えている。これまでの災害ボランティアセンターの設置・運営訓練においても、初動期での医療専門職の確保が難しい状況となっている。医療専門職の配置を踏まえ、市社会福祉協議会と共に、全国社会福祉協議会、全国ボランティア・市民活動振興センターの運営上の留意点を基に南加賀保健福祉センターから専門的な指導を受け、市災害ボランティアセンターの運営マニュアルの作成を進めていく。マニュアル作成後は、訓練と評価を積み重ね、活動の充実を図っていく。



6月議会一般質問は 6月16日(水)10時～と17日(木)10時～です

場所 能美市本庁舎 三階議場 事前申込みは要りません。(コロナ感染症の対応にご配慮願います)

ご意見・ご相談等がございましたら下記まで☆

連絡先記載の無いご意見は返信が出来ませんので、ご返答希望の方は連絡先をお忘れのないように願います。

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町字 16-2
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209
Mail kizuna@3926jp.net http://3926jp.net

